

第4回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

- 休眠預金でコロナ対応に迅速に対応頂いたことに感謝。コロナの影響が来年には、より深刻に、雇用や社会に出るのではないかと懸念される中で、来年もこうした支援を引き続き検討いただきたい。
- 資金分配団体と実行団体の申請時に、必要な書類が多く申請を断念した、との話を聞く。書類の分量等でハードルを設けるべきか、今後議論の余地があるのではないか。(同趣旨ご意見複数あり)
- 休眠預金とは別の助成金では、コロナの下で対面サービスが提供できなくなった影響から申請数が減少したが、一方でオンラインを活用した活動も散見される。緊急枠の事業の特徴を見れば、ニューノーマルの時代に即した制度設計の示唆があるのではないか。
- WGでヒアリングをする際には非公開にするなど、資金分配団体、実行団体も、率直に思っていることを言えるようにすべき。前向きに建設的に、今後の視点は大切にしつつ、我々も含めて耳の痛い話も受け入れる姿勢で臨むことが大切。成功も失敗も共有する視点を大切にしながら、議論を進めるべき。
- この状況下で、子ども食堂を始めたいがやり方に悩みを抱えているという話を聞くが、そういう方どうしの意見交換は有効。19年度助成事業で、あまりハードルが高い立派なものというよりは、こういった理由で助成を決定したという事例を共有するとよいのではないか。
- 休眠預金の事業の例示に子ども食堂がよく出るが、農村や第一次産業分野の方からは自分たちはテーマの外かと聞かれる。地域の課題解決も休眠預金の事業領域のはずだが、そういう声がある。
- この制度でいろいろな形でお金が動き始めたと実感する。休眠預金を使って、シングル家庭や困窮家庭の子供たちが、芸術や自然体験など、経験できるチャンスや資源が増えたと実感している。子どもが遊ぶことも学ぶことも、子ども食堂と同時に充実する形で休眠預金が活用されることを期待する。

以上